

年頭のごあいさつ



茨城県知事
茨城県統計協会総裁

竹内 藤 男

新春にあたり、謹んで皆様のますますのご健勝とご活躍を、心からお祈り申し上げます。

昨年も、県民の皆様の温かいご支援、ご協力をいただき、多くの成果を収めることができました。厚くお礼を申し上げます。

今年は、花と緑の祭典・全国都市緑化いばらきフェアを3月27日から5月30日までの65日間にわたり、水戸市の偕楽園公園・千波公園で開催いたします。県民総参加のもとでぜひ成功させたいと存じます。

さて、今大きな課題は県内経済の速やかな回復を図ることであり、県では、身近な社会資本の整備や中小企業対象の低利融資の創設を中心とした384億円にのぼる過去最大の緊急経済対策を取り纏め、昨年9月及び12月の県議会で予算の増額をしたところです。

発展基盤の整備では、本県が21世紀にわたる活力を確保できるよう常磐自動車道に加え北関東自動車道、首都圏中央連絡自動車道、東関東自動車道水戸線という4本の高速道路と日立や大洗に加え、1998年開港をめざす常陸那珂、沖合人工島の構想がある鹿島という4つの重要港湾を引き続き整備していきます。さらに、2000年開通をめざす新鉄道・常磐新線を整備し、人、物、情報が行き交う交流拠点づくりを進めてまいります。

また、県民一人ひとりが真の豊かさを実感できる地域社会の実現をめざし、積極的な施策展開を図ってまいります。

まず、つくば研究支援センターやひたちなかテクノセンター、さらに昨年完成した農業総合センター、生物工学研究所等により本県に集積が進む科学技術を産業活動等に活用し、「科学技術の県づくり」を進めます。

また、鹿島アントラーズの本拠地となる県立カシマサッカースタジアムや生涯学習の拠点となる水戸生涯学習センターを今春開所するほか、近代美術館や歴史館の企画展の充実とともに自然博物館の整備等「文化の県づくり」を進めます。

さらに、高齢者の在宅福祉の向上を図るとともに医療・福祉の人材を育成するため平成7年開校を目指し県立の医療大学の整備を進めます。また、救急医療体制の一層の充実を図るとともに地域がんセンターの整備のほか、交通事故防止やエイズ対策等に取り組む「福祉の県づくり」を進めます。

また、環境先進県をめざして地球環境保全に向けた取組みのほか、霞ヶ浦浄化、ごみ対策、緑の保全・創出をより一層推進してまいります。

県庁舎については、広く県民の方々から賜りましたご意見を十分に踏まえ水戸市笠原町の林木育種センター地区へ移転することといたしました。

本年も全力で県政運営に取り組む所存でありますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

新年のごあいさつ



茨城県企画部長
茨城県統計協会会長

小林 秀文

新春にあたり、謹んで皆様の御多幸と御健勝を心からお祈り申し上げます。皆様には、日頃、統計行政に対し多大な御支援、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年、10月に就業構造基本調査と商業統計調査の同時実施、11月には全国物価統計調査など多くの調査が行われましたが、皆様の多大な御尽力により円滑に実施することができました。深く感謝申し上げる次第であります。

さて、今日、我が国は、高齢化や、高度情報化の進展、ライフスタイルの多様化など、社会経済情勢の急速な変化を遂げようとしており、また地球規模での環境問題など新たな課題への対応が求められています。

こうした中で、本県においては、「茨城県民福祉基本計画」を指針として、「21世紀をリードする茨城づくり」を基本目標に、県民が誇りを持てる真に豊かな地域社会づくりに取り組んでいるところであります。

この計画を推進するにあたり、厳しい財政状況のもとで、効率的な行政運営をしていくためには、正確な現状把握と的確な将来予測が不可欠であり、その基礎資料となる統計の果たす役割は、ますます重要なものとなっている訳であります。

しかしながら、統計を取りまく環境は、プライバシーの問題、不在世帯の増加、ライフスタイルの変化などにより、依然として厳しいものがあります。このため、県としましても、新しい社会情勢に対応した統計調査環境の整備と統計情報の充実強化を図ってまいりたく努力したいと思っております。また、統計思想の普及啓蒙を図るため広報活動を強化するとともに、次代を担う青少年に対する統計教育をより一層推進してまいりたいと考えております。

本年も通常の調査のほか、住宅統計調査や農業基本調査、漁業センサスなど各種の調査が行われます。どうか皆様におかれましては、統計のもつ社会的意義と重要性をふまえ、本県統計事業発展のため、尚一層の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。